

令和5年12月6日 提出

請願・陳情文書表

陳情第53号

日吉ふれあい会館閉鎖の「通知を撤回」し、「現状での存続」を求める陳情

- 1 要 旨
- ・八雲地区の日吉ふれあい会館は、高齢者、成人、子育て中の親や子どもたちなど、多くの市民に利用されている。
 - ・昨年12月の説明会の場で閉鎖を決定。本年4月に地域全体への回覧で「閉鎖」することが通知された。
この通知は「松江市立公共施設の残廃」を、地域住民の意見を広く聞くことなく、その場で市の担当者と任意団体の自治会長だけで決め、一方的に通知されたと受け止められて撤回を望む強い声が聞かれる。
 - ・説明会で要望された①「投票所」の廃止②「福祉避難所」の廃止③「ふるさと教育」の拠点変更について改善への働きかけがなされているとは承知していない。
 - ・私たちは存続を望む多くの声を背景に「存続の会を結成」し、アンケート、電話、口頭等で市民の声を聴取した。地域住民、高齢者、利用者、子育て中の親、子ども・精神科の医師等々から声が寄せられた。
 - ・日吉ふれあい会館は、駐車場があり、研修・講座等の開催だけでなく、投票所にも使用されるホールも有し、隣には親子や子どもが喜ぶミニ公園も存在する優れた施設である。また、高齢者のふれあい、子育ての拠点、図書館、児童生徒の自習の場、子ども広場等々多目的に利用されている。
 - ・近所に住む精神科の医師より「日吉ふれあい会館」をモデルにした拠点・施設を、市内各所にひろげることが、市長の言われる「住みたくなる街づくり」に資するとの声もあった。
- 以上から、日吉ふれあい会館を閉鎖するとの通知を撤回し、民間への移譲など考えないで、現状で存続をしていただきたい。

この日吉ふれあい会館は、八雲村時代に建てられた。当時の役場が管理・運営し多くの住民に利用されていた。旧松江市と合併後は、市が管理・運営し、地域住民だけでなく広く市民に親しまれ、活用されてきた。

この度公共施設適正化計画により、この4月に「来年3月31日で閉館」するとの文書が地域に回覧された。私たちが知っている経過は、松江市がまず令和4年9月に自治会長を集め説明。令和4年12月4日には、再度日吉地区自治会長を集め「日吉ふれあい会館の取り扱いに関する説明会」を開催した。そこで今まで村や市が持っていた管理・運営費を地元で負担するように求め、地元が負担できない旨伝えたとその場で閉鎖が決められた。そして翌令和5年3月31日付発の教育委員会副教育長と八雲支所長名の文書で、ふれあい会館の閉鎖が地域住民に知らされた私たちは受け止めている。我々地域住民や利用者に説明をしたり、意見を聞くなどは全くなかった。

松江市立の公共施設の残廃が、市の一部担当者と任意団体の自治会代表だけで決められたと、多くの市民や住民は感じて疑問に思っている。また、その時に参加の自治会長より求められた3つの条件がまだ解決されていない。

①投票所を同じ投票区内で選定することについて・・・そのような活動が市からなされていることは承知していない。ここは、障がい者が段差もなく、車イス

での投票ができて好都合である。高齢者などの投票離れが進むことも懸念されている。

②福祉避難所をなくすことについて・・・近くには先年マスコミ等で氾濫の懸念が大きく報じられた意宇川がある。また水害を伴わない地震などの災害も増えてきている。特に福祉と名付けられた避難所についてこれからは増やすべきで、お金がないから減らすことには納得ができない。数の少ない福祉避難所なので、むしろここを大庭地区や大草地区の方も利用できるようにすることが、防災上の拠点が増え、市財政の効率化にもなるとの意見も聞かれ始めている。

③「ふるさと学習の拠点」(周藤弥兵衛学習)として松江市の小学生が貸し切りバスで多数訪れる。そして説明・昼食・休憩・トイレに、ここは拠点となっている。

この会館がなくなることについて松江市教育委員会は、往復4km以上も離れている「八雲公民館の利用」を指示している。ふれあい会館がなくなると、代替え利用される別の拠点の親水公園トイレでは、利便性に無理がある(男子用トイレは2か所、女性用トイレは和式が1か所で、薄い壁一枚隔てた男女共用)。子どもや先生方のトイレ環境等は特に大切である。社会人教育を推進し、子育て環境を良くし、郷土学習を進める立場にある松江市教育委員会が、子どもたちや先生方のために存続することの主張はあっても、廃止を提唱することなど全く理解できない。

閉鎖を通知する松江市教育委員会と八雲支所からの文書の回覧に疑問を感じ、「閉鎖はやめてほしい」との声が多く聞かれた。そこで私たちは「日吉ふれあい会館存続の会」を立ち上げ、住民アンケート等を行った。回答された方の殆どが閉鎖に反対で、存続を強く望んでおられた。アンケートや電話、口頭等で伝えられた内容の一部は次の通りである。

- ・社会人教育の場として利用している団体の方・・・来年度の会場確保に困惑している。
- ・高齢者の「なごやか寄り合い」の会場になっている。集まる場所がなくなり大変困る。
- ・気軽に集まれる場所がなくなると地域がますます衰退してしまう。今でも人間関係が希薄になっているのに・・・。
- ・高齢者ですが、ぼけ防止にパソコン教室に通っている。絶対なくさないで。(パソコンで自作した手紙が届いたので、市長にも届け出済み)
- ・小学生と思われる子が、「ぼくたちの遊び場を奪わないで・・・」と小さい絵だが、「涙を流している顔イラスト」を描いて寄せてきている。
- ・高齢男性からは「老人会が生きがいった。 (廃止で会館がなくなるのは困る・・・注:存続の会)」「会館周囲の草刈りや剪定は今後も続ける。」

この地域に住む精神科医師は「自分の子育てにこの会館は大きな力となってくれた。現在孤立から心を病む人が増加しており、日々対処している。このような人と人のふれあう場はとても重要。この「日吉ふれあい会館」がモデル事業となり、このような場所を市内各所に広めることが、市長の言われる「住みたくなる街づくり」には欠かせない。(省略)」と手紙を寄せている(市長にも届け出済み)。

すでに閉鎖された「別所ほほえみ会館」の地区に住む70代男性は、「交流会や葬儀さえできなくなった。」と怒る。こちらも廃止された「秋桑すこやか会館」

